東日本大震災

仙台で現地追悼法要

1300人参拝、復興への機縁に

本山主催による「東北教区　東日本大震災現地追悼法要」が9月6日午後0時50分からご門主ご親修のもと、仙台国際センター（仙台市青葉区）で営まれた。同教区の僧侶や門信徒ら1300人が参拝、深い悲しみを抱えつつ、お念仏のみ教えを依りどころに共に復興への歩みを進める機縁とした。お裏方がご臨席され、新門さまがご出座された。

津波被害に遭った宮城県石巻市・称法寺の細川雅美住職や、原発事故の影響で避難生活を送る福島県相馬組の住職、僧侶らが法要に出勤し、阿弥陀経がつとめられた。

参拝者を代表し、宮城県名取市・明観寺門徒の引地晴美さんが「追悼のことば」（別項）。山崎龍明・武蔵野大学教授が法話し、大震災発生時刻の2時46分に合わせて全員で恩徳讃を唱和した。

東北教区災害ボランティアセンターのスタッフにより、宮城県南三陸町で復興のシンボルとして育てられたヒマワリが会場前に飾られたほか、家財を失い念珠などを持参できなかった参拝者には、本山門前の開明社から寄せられた念珠や式章が渡された。法要に先立ち橘正信総長が「一日も早い復興を願い、宗門を挙げて全力で支援に取り組む。先立たれた方々を追悼するとともに、み教えに支えられ、阿弥陀如来のみ光に照らされ、お念仏を申しつつ、共に同じ道を歩む御同朋御同行として、責務を果たしたい」と挨拶した。

称法寺門徒の菅原とめ子さん(63)は自宅が津波で流され、近くに住む姉と義兄を亡くした。「追悼の法要に初めて参拝し、少し区切りがつけられ安心できた。姉たちの葬儀も9月18日につとめていただくことになった。受け付けで式章をいただき、これからは大切に身に着けおり参りを続けていきたい」、同県亘理町の郵便局に勤めていた娘・あゆみさん(26)を津波で亡くした白石市・専念寺門徒の斉藤とも子さん(54)は「娘は雅楽が好きだったので、法要で荘厳な雅楽の音色を聞くと涙が止まらなかった。有り難い法要に参拝し、少しでも前を向いていきたい」と話していた。

ご門主、お裏方、新門さまは法要に先立ち仙台別院（中岡順忍輪番、同区）に立ち寄られ、本堂でご焼香。東北教区災害ボランティアセンターをご視察され、ボランティアスタッフの声を直接お聞きになるとともに、労いの声をかけられた(写真)。

また、同日午前には東北教区教務所で教務所長会が開かれ、出席者が法要に参拝した。